

カボスの優良系統選抜について

第1報 祖母の香の特性

三股 正・白石利雄・秋田忠夫 (大分県柑橘試験場津久見分場・大分県柑橘試験場)

MIMATA, T., T. SHIRAIISHI, and T. AKITA : On the Selection of Excellent Strains in Kabosel (1) Characteristics of the Sobono-Kaori, Variety of Kabosu

特産カボスは優れた芳香と、豊かな果汁成分を有した香酸カンキツとして消費も着実に伸びている。しかし用途によっては種子が多すぎることを要望もあり、1976年より無核カボスの収集選抜を実施した。その中で果実の形質、無核果率ともに特色のあるNo50 (祖母の香) について調査したのでその結果を報告する。

1. 育成経過

大分県大野郡緒方町大字人宛、後藤正彦氏が1964年に栽植したカボス園で、1974年に芽条変異として発見したものである。

2. 調査方法

緒方町大字小宛にある原木および2代目の高接樹、隣接している同樹令の普通系カボスについて、芽条変異の形態、樹性、果実の形質、自家授粉、他家授粉による含核に対する影響などの調査を行った。分場内においては、カラタチ台2代目の幼木について結実性、径時的果汁成分の変化、階級別果実の品質および含核数などを調査した。

3. 調査結果

1) 変異枝 南面に発生した第1主枝の分岐点より50cmに位置する亜主枝が基部より変異しており、枝変りの基部には判別出来る程度の盛り上がり確認される。

樹勢は原木元枝、普通系カボスに比べやや弱く、樹姿は開張性で下垂する。枝梢は細長で節間はやや長く、葉身、

翼葉ともに小さい。

2) 花 花蕾、子房ともにやや小さく、花弁は5枚で開花期は、普通系カボスとほぼ同時期である。

3) 果実 大きさは原木元枝、普通系カボスに比べると小さく1果平均重70g内外で、果頂部の凹環は明瞭でやや小さい。

果面は幼果時には軸ハダを呈し、果梗部から果頂部にかけて放射状の溝がある。この軸ハダおよび溝は果実肥大に伴って漸次うすくなる。

4) 果汁成分 2代目の幼木で調査した利用最盛期(9月上・中・下旬)の果汁歩合は原木元枝(2代目)に比べ13.7%普通系カボスに比べ18.4%高い数値を示した。果汁中の糖度は、原木元枝、普通系カボスに比べ差異はみられなかったが、クエン酸は原木元枝に比べやや高く、普通系カボスよりやや低い傾向であった。

5) 含核 普通系カボス(隣木対照)の1果平均含核数23.3コ、原木元枝の1果平均含核数19.3コに対し原木の自然授粉区では1.4コ、無核果率58.2%であった。

また普通系カボスの花粉を人工授粉した場合の含核数1.0コ、無核果率53.0%となり普通系カボスに比べ、いずれも含核数は極めて少なく、無核果率も高かった。

以上の結果から祖母の香は、樹性、果実の形質、含核数など特色のある変異枝であることが認められる。

第1表 原木の品質および含核調査

系統処理区	項目 年月日	1果 平均重 g	調査 果数 個	無核 果数(率) 個(%)	1果当たり平均 種子数		果実数		1果中の 最多 種子数	果汁 歩合 %	クエン酸
					完全	不完全	種子0 ~3粒	種子数4 粒以上			
原木 (自家授粉)	昭 56.10.15	69.7	25	8個 (32%)	1.3	3.5	23 (92%)	2 (8%)	4	42.4	5.73
原木 (普通系カボス授粉)	〃	75.6	17	9 (53%)	1.0	7.4	17 (100%)	0	3	43.5	5.86
原木 (自然授粉区)	〃	57.5	12	3 (25%)	1.5	3.0	9 (75%)	3 (25%)	4	44.6	5.93
原木 (2代目授粉区)	〃	62.5	14	7 (50%)	0.8	2.0	14 (100%)	0	1	44.0	5.97
原木元枝 (自然授粉区)	〃	96.7	15	0	19.3	9.3	0	15	32	37.2	6.03
普通系カボス (自然授粉区)	〃	127.7	14	0	23.3	7.7	0	14	31	36.6	5.90